

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】 聖隷こども園 桜が丘

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

「一人ひとりを大切に作る愛のある保育」「子ども自身が考え、判断できる子に育てたい」この2点を重点に置き、保育のエピソードの共有や子どものことを語り合う時間を大切にしている。勉強会や職員会議を通して正規職員は時間を作れているが、パート職員との時間が作れていないため、今後検討していきたいとのことであった。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

生活面は特に、子ども達一人ひとりと丁寧に関われるよう、遊びの環境を整える等の工夫がされていた。着脱等は、職員と1対1でゆったりとした雰囲気の中で行い、温かい雰囲気の中で保育が展開されていた。保育が変化の段階であることが様子より伺えた。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持は徹底されている。保護者・来客者が目にする場所に個人情報がわかるものはない。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができていますか。

苦情解決の制度について職員周知をし対応している。
内容によっては、副主任会で相談し、その後全職員に伝える。
苦情までいかない場合も、内容に応じて職員会等で職員へ発信している。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

常に必要なことや看護師がピックアップしたことを園長、主任から部会で伝えてい
る。看護師を中心に感染症対策を速やかに徹底している。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

園長、主任、看護師を中心に取り組んでいる。
状況・内容によって会議で周知している。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

修繕関係は園で治せるのか、業者に依頼するのか確認をし、速やかに対応するよう
にしている。予算外の場合は本部に相談し、進めている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が
感じられる工夫がなされているか。

園内、各クラス共に清掃、物の整理整頓等もしっかりされていた。
自然物や季節の製作物等が飾られ、視覚的にも温かい雰囲気であった。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

子ども達の発達を促し、安心して過ごせる環境を学び合い、大きく室内環境設定を変更し、子ども達の姿を見ながら調整中とのことであった。特に乳児クラスでは、子どもの興味、関心が広がっていくようなコーナーが設置され、家庭的な温かい雰囲気作りもされていた。より子どもが安心し、自ら遊び出し、集中して楽しめる環境が作られていくことが楽しみである。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む

- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

乳児クラスでは環境を学び合い、年齢発達に合ったコーナーが作られ、安心して自ら遊びを見つけて主体的に楽しむ姿が見られた。日向で寝そべり、くつろぐスペース等もあり家庭的である。主体的に遊びが展開されている為、生活の部分は職員が丁寧に関わることが出来ていた。大人の動きや言葉、声の大きさも配慮されていた。一方で、子どもを膝に入れ、大人がやってしまうシーンも見られた。今は見守るべき時なのか、声を掛ける時なのか、手を差し伸べる時なのかをしっかりと見極め、その子にとって必要な関わりを心掛けることで、子どもが主体的に生活を作っていける経験にもつながると感じた。

幼児クラスではホールを活用し、ランチルームを設定していた。子どもが自分で考え、選択し、決めることができ、見通しを持って過ごせる育ちにもつながると感じた。一方、職員が配膳に関わり、子ども達の食事の様子を確認したうえで、必要な関わりをする職員がいないのが残念であった。

【全体を通して】

年度途中の退職者があり、短時間パート職員が多いことで職員体制が苦しい中、職員皆で協力し工夫している。園長と主任の思いの共有がしっかり出来ていることで、副主任を巻き込みながら組織作りがされていた。保育が変換されている途中ではあるが、学びからの実践力の強さを感じた。子ども達の姿を踏まえながらの今後の保育展開が楽しみである。

評価日 2024 年 1 月 16日

評価者 園 名 こうのとり保育園

役 職 園長

氏 名 梶山 美里